

駐日ラテンアメリカ大使インタビュー

ホンジュラス共和国

ハロルド・エフライン・ブルゴス・カストロ駐日ホンジュラス大使



太平洋と大西洋を結ぶ「陸の運河」構想が再起動

—外交関係 90 周年と万博を通じ関係を促進したい—

ホンジュラス共和国のブルゴス駐日大使は、ラテンアメリカ協会のインタビューに応じ、カストロ政権の政策課題、トランプ政権下の米国との関係、日本と関係、大使としての取り組み等について見解を表明した。同大使は、コーヒー・フルーツ関連企業等での勤務の後、駐台湾大使、中国外交関係開設特任大使等を歴任し、2024年4月から駐日特命全権大使。

インタビューの一問一答は次の通り。

—大使は駐日大使として着任されて1年余りになりますが、日本についてどのような印象をお持ちですか。これまでの日本滞在で最も印象深い思い出は何ですか。

日本での生活は、私にとって職務のみでなく、個人的にも精神的にも大きな意味を持つものとなっています。一番印象的だったことは、天皇陛下に信任状を奉呈したときです。歴史の重みと莊厳さに加えて、両国の関係を讃える敬意と温情に満ちた儀式が印象的でした。

広島・長崎の平和記念式典も重要な経験となりました。被爆者の生の証言は感動的なものでした。歴史だけでなく、現在のあり方、さらには外交の役割や紛争の現実についても考えさせられました。

日本の秩序、治安、清潔さ、そして日常生活の静寂で調和の取れた姿には、常に感銘を受けています。異なる現実から来た我々にとって、これらは学ぶべき大切な教えとなっています。日本は、現代性と伝統を共存させながら、現代社会が抱える課題と向き合っています。



天皇陛下への信任状捧呈の模様（駐日ホンジュラス大使館提供）

—2022年1月にシオマラ・カストロ大統領の政権がスタートして3年余り経ちましたが、その優先政策を教えてください。また、今年11月の次期大統領選挙を控え、候補者たちが論じている主要なテーマは何でしょうか。

ホンジュラス初の女性大統領となるシオマラ・カストロ政権は、複雑な財政・社会・倫理の状況を引き継ぎ、社会変革、腐敗撲滅、制度強化を重点とした施策を推進しています。就任当初から、国家の再建、格差是正、医療・公教育の向上、農村・食料安全保障の強化、包摂的経済の推進などを重点的に進めています。

主な施策として、8つの新病院の建設、約6,000の学校の再建・改修、道路・農業インフラ、エネルギー分野への公共投資などがあります。また、公共予算の集中管理による効率化、透明化、管理強化も行っています。

2025年の大統領選挙に向けての議論においては、経済、雇用、治安などが主要テーマとなっています。議会では、構造的な汚職腐敗に対処するため、国連の協力による無処罰・汚職対策国際委員会（CICIH）の設立が論じられているほか、不適切な税優遇措置の見直しによる公正で強固な税制の確立、保健・教育・インフラへの投資を増やすための公的財政の強化などが検討されています。それは、零細納税者への負担を避けながら、税支払い能力の大きい者がより多く納税するより公平な制度の構築を狙いとしています。



シオマラ・カストロ大統領（駐日ホンジュラス大使館提供）

—貴国は、パナマ運河を補完するものとして、太平洋と大西洋を結ぶドライカナル（陸の運河）構想を推進していますが、その進捗状況を教えてください。

ホンジュラスでは、カストロ政権下で、太平洋と大西洋を結ぶドライカナル、「大洋間鉄道プロジェクト」が再び注目され、進められています。この構想は 19 世紀からあり、当時からヨーロッパが出資して検討されていましたが、現在、国内外のパートナーの関心と政治的意志のもと、現代的で持続可能な地域的プロジェクトとして再起動しています。

大洋間鉄道プロジェクトを立案・推進する国家委員会が設立され、国営企業の設立も進行中です。プロジェクトでは、港湾、駅、物流センター、その他関連設備の建設が検討されており、技術・経済・環境・社会面のフィージビリティ調査、エンジニアリングや事業化等の調査のための資金調達が行われています。

ホンジュラスの強みの一つは、アマパラ（太平洋側）およびプエルト・カステイージャ（カリブ側）などの自然の深水湾で、パナマ運河を通行する船舶よりも大きい「ポストパナマックス」級の船舶も大規模浚渫なしで受け入れ可能となることです。この自然条件が大きな競争力となるでしょう。

—今年 1 月にトランプ大統領の第二期政権が発足し、移民の本国送還や関税引き上げなどが行われていますが、貴国と米国との関係にどのような変化が生じていますか。

ホンジュラスは、米国と相互尊重、協力、率直な対話を基盤とした歴史的関係を維持しています。トランプ政権は、米国在住のホンジュラス人に、特に移民問題について影響を与える可能性のある政策を採りましたが、ホンジュラス政府は、在外公館の強化を通じて、同胞の権利保護と包括的解決の模索に力を入れています。米国内だけでなく、移民ルートのメキシコを含めて、領事サービスを拡充しています。

ホンジュラスは、貧困や治安問題など、移民の構造的原因への対処を軸とした人道的な移民政策を唱導しています。通商面では、通商チャネルの維持、利益の確保、新たな市場の開拓による多様化戦略などを進めています。

—今年は日本と貴国が外交関係を樹立して 90 周年であり、また、青年海外協力隊派遣取極が結ばれて 50 周年になります。現在の二国間関係をどう評価されますか。今後どのような分野で関係強化が期待されますか。

日本とホンジュラスの関係は、平和、協力、発展という共通の価値観のもと、堅固で相互尊重に満ちたものとなっています。外交関係 90 周年、青年海外協力隊派遣取極から 50 周年という節目の年を迎え、両国の絆の強さが再確認されました。現在、日本はホンジュラスにとって、持続可能な農業、防災、技術研修などの面で重要なパートナーとなっています。

今後、教育技術、再生可能エネルギー、インフラなどの分野で関係強化が期待されます。例えば、ホンジュラスの新設病院において、専門医の育成が急務となっており、日本が大きな役割を果たせると考えています。また、若手ホンジュラス人への技術・教育支援の枠組みの拡大や、多様でアクセスしやすい形での技術協力の提供が期待されます。

さらに、再生可能エネルギー、農業、物流など、ホンジュラスの成長分野への投資機会についての情報発信も重要です。日本がインド・太平洋地域でのプレゼンスの多様化を進める中、ホンジュラスは大西洋・太平洋へのアクセスを有する安定したパートナーとなりうると思います。

—最近、大使が特に関心を持たれ、また力を入れて取り組んでおられることは何でしょうか。

ホンジュラスの潜在力をアジアへ発信し、戦略的関係の構築や具体的な協力・投資の機会を生み出すことに重点を置いています。

その一環として、「2025 年大阪・関西万博」でのホンジュラスの出展は、重要な国際的発信の場であり、我々のアイデンティティーを投影し、絆を深める機会として重視しています。

今年、アジアにおけるスペシャルティコーヒーの主要な展示会である日本スペシャルティコーヒー協会主催イベントに参加し、ホンジュラスのコーヒーのブランド力向上を図っています。さらに、経済使節団を受け入れ、経済関係の強化と交流の促進も推進しています。

ホンジュラスのコパンと日本の小松市の姉妹都市提携など、教育・文化面の交流も後押ししています。コパンのマヤ遺跡発掘・保存のため、公立小松大学が 30 年近く携わっています。

そのほか、大阪、京都などにホンジュラスの名誉領事を任命し、日本におけるホンジュラスのプレゼンスを拡大するよう努めています。また、フィリピンとシンガポールに兼轄大使館を開設したほか、タイとブルネイからも兼轄大使館開設について同意を得るなど、インド・太平洋地域での関係強化も進めており、ホンジュラスを信頼できるパートナーとして発信しているところです。



マルコス・フィリピン大統領（左写真）及びシャンムガラトナム・シンガポール大統領（右写真）

に対する信任状捧呈の模様（駐日ホンジュラス大使館提供）

—読者に対してメッセージがあれば、お願いします。

ホンジュラスは、勤勉な人々、豊かな文化と歴史、そして自然の魅力あふれる国です。タバコ、カカオ、コーヒーなど、世界品質の農産物も豊富です。様々な課題の中から、多様な可能性が芽吹いています。ホ

ンジュラスへ、ぜひ新たな目を向けてください。ホンジュラスを単なる「戦略的パートナー」としてだけでなく、「豊かな魂をもつ未来へ橋を架ける国」としてご覧いただきたいと願っています。大阪・関西万博のパビリオンでお会いできれば幸いです。そして、ホンジュラスの極上コーヒーをぜひ味わってください。

(注) 本インタビューのスペイン語全文は、ラテンアメリカ協会ホームページ英語サイトに掲載しています。

(ラテンアメリカ協会副会長 佐藤 悟)